

令和元年度「学校評価アンケート」結果の概要と改善策

秋田県立仁賀保高等学校

1 学校評価の目的

- (1) 本校の教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民の方々から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進める。

2 学校評価アンケートの実施

	調査期日	回収率
保護者	12月11日～18日	95.6%(238/249名)
生徒	12月17日	97.2%(242/249名)
教職員	12月11日～20日	100.0%(27/27名)

3 学校評価の公表方法

- (1) PTA評議員・運営委員への配付と説明
- (2) 学校評議員への配付と説明
- (3) 保護者への配付と学校HPへの掲載

4 結果の概要と改善策

(1) 保護者アンケート(全18項目)から

A: そう思う B: どちらかといえばそう思う C: あまりそうは思わない D: そうは思わない E: わからない

	H29	H30	R元
全18項目のAとBの合計平均	71.0%	65.9%	69.1%
① 良い評価が75%以上の項目(AとBの合計値)	8	2	7
	H30	R元	伸び率
No.7 イベントやボランティアに貢献	(72.7%)	→86.1%	+13.4%
No.10 先生方の学習の評価	(70.4%)	→77.8%	+7.4%
No.11 ルールやマナーの指導	(80.1%)	→82.3%	+2.2%
No.13 進路の情報提供	(68.5%)	→76.5%	+8.0%
No.14 インターンシップや職場見学	(76.8%)	→79.0%	+2.2%
No.15 学校行事の充実	(68.5%)	→76.1%	+7.6%
No.18 本校入学に満足	(75.7%)	→81.9%	+6.2%
② 課題となる項目(CとDの合計値が30%以上)	2	3	3
No. 3 落ち着いた学習環境	(37.8%)	→37.0%	+0.8%
No. 5 PTA活動への参加	(55.1%)	→60.1%	-5.0%
No.16 生徒会・部活動の充実	(49.8%)	→50.8%	-1.0%
③ 改善策			
No. 3 疑問→探究→発見の意識力をつけ、授業改善を進め、学習意欲を喚起する。			
No. 5 早い時期に呼びかけること、また活動内容を会報等で保護者に確実に伝える。			
No.16 部活動を精選し、各部の魅力を生徒に伝えることで入部者を増やし、活性化や充実に繋げていく。			

(2) 生徒アンケート(全20項目)から

A: と思う B: どちらかといえばと思う C: あまりそうは思わない D: そうは思わない

	H29	H30	R元
全20項目のAとBの合計平均	75.5%	69.1%	74.7%
①昨年より上昇した項目数(AとBの合計値)	3	0	16
②伸び率が10%以上の項目(AとBの合計値)	0	0	2
③課題となる項目(CとDの合計値が30%以上)	4	8	4
	H30	R元	伸び率
No. 2 施設・設備	(71.4%→75.2%)		-3.8%
No. 3 清掃	(65.9%→66.1%)		-0.2%
No. 4 落ち着いた学習環境	(36.7%→31.0%)		+5.7%
No.17 部活動の充実	(51.0%→47.9%)		+3.1%
④改善策			
No. 2	築40年以上経過しており、校舎の老朽化は著しい。破損箇所の修繕や整備やなどに積極的に対応する。		
No. 3	定期的に清掃強化週間を設け生徒と職員の校内の美化にかんする意識を高めていく。		
No. 4	疑問→探究→発見の意識力をつけ、授業改善を進め、学習意欲を喚起する。		
No.17	部活動を精選し、各部の魅力を生徒に伝えることで入部者を増やし、活性化や充実に繋げていく。		

(3)教職員アンケート(全33項目)から

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

	H29	H30	R元
全33項目のAとBの合計平均	86.5%	88.6%	83.6%
①昨年より上昇した項目数(AとBの合計値)	6	17	8
②伸び率が10%以上の項目(AとBの合計値)	1	4	1
③課題となる項目(CとDの合計値が20%以上)	7	8	10
	H30	R元	伸び率
No. 5 共通理解による教育課程	(10.3%→33.3%)		-23.0%
No. 6 実態に即した教育課程	(20.7%→25.9%)		-5.2%
No. 8 定期的な教科内情報交換	(24.1%→22.2%)		+1.9%
No.11 学習指導強化月間	(10.3%→33.3%)		-23.0%
No.13 備品、教具の効果的活用	(13.7%→22.2%)		-8.5%
No.17 校則やルールについて	(20.6%→33.3%)		-12.7%
No.21 朝学習について	(20.6%→22.2%)		-1.6%
No.24 部活動の活性化	(48.3%→44.4%)		+3.9%
No.25 ボランティア活動	(20.7%→33.3%)		-12.6%
No.31 施設設備の効率的利用	(10.3%→33.3%)		-23.0%
④改善策			
No. 5	普通科の学級減によるコース制を再検討する。令和4年度入学生から新教育課程が実施され、普通科・情報メディ科においてどのような教育課程を編成するか、早期に教育課程検討委員会を開催し、話し合う機会を設ける。		
No. 6	生徒の実態に即し、それぞれの学科で育成したい生徒像を明らかにしながら検討していく。		
No. 8	教科主任は、定期的に科会を開催し、各科目の進捗の確認や評価や問題点について積極的に話し合う機会を設ける。		
No.11	学習指導強化月間のあり方を教員の立場と生徒の立場から見直す。		
No.13	予算の範囲内で空き教室へ視聴覚機器の導入等を進めていく。		
No.17	生徒指導部と学年部が連携を強化し、学年間の指導に相違がないよう配慮する。		
No.21	各学年で年間や学期の計画をたて実施していく。		
No.24	部活動を精選し、各部の魅力を生徒に伝えることで入部者を増やし、活性化や充実に繋げていく。		
No.25	特に部活動に入っていない生徒に対して、地域のボランティア活動に積極的に参加することを促す。		
No.31	学級減により空き教室が増え、予算の範囲内で効率的な使用方法を検討する。(今年度プロジェクタ・マグネットスクリーンを設置した部屋を設けた)		

5 学校評価会議の開催

2月13日(木)に学校評価会議を開催し、課題等について話し合う機会を設けた。事前に全体協議題を設定し、分掌部会と学年部会を実施し、職員全員で話し合い自分自身のこととして意識し課題解決に繋がるようにした。

6 学校評議委員会・学校関係者評価委員会の開催

2月14日(金)に学校評議委員会及び学校関係者評価委員会を開催した。学校評議員5名・PTA会長、学校からは校長・教頭・事務長他8名の各分掌主任が参加した。各評議委員の皆様から質疑があり、最後にお一人ずつご意見やご提言をいただき学校関係者としての評価とした。